

地方出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

長野県図書館協会と県下の図書館、出版社の3者が協力 「信州の名著復刊シリーズ」の刊行について

文・宮下 明彦

はじめに

いま、読む・書く・話す・聞くという人間の基本的な能力が衰退しています。生徒も学生も成人も本を読まなくなり、思考力、想像力そして創造力が衰えているといわれます。読書文化の向上が日本の大きな課題になっています。

一方、日本の出版物は現在新刊8万点にも及び、まるで洪水のように出版されていますが、その何割かは書店の棚に並ぶことなく、読者の目に触れないままその命を終わっています。

このような現状、新刊書の海の中で、いつしか読者から忘れられ、図書館に埋もれてしまった名著、名作を拾い上げ、再び信州の古典として復刊し、多くの読者の手もとに届けたいと考えました。地域の知の財産として書庫の奥から蘇らせたいと思います。

そこで、長野県図書館協会と県下の図書館、及び出版社の3者が協力し、信州の名著を復刊する計画を立ち上げました。県下の図書館が調査協力をするとともにその原本を提供し、図書館協会が編集、監修をし、一草舎出版が出版、販売を担当する。3者が協力、分担するという形で「信州の名著復刊シリーズ」がこの秋に刊行の運びとなりました。

図書館が推奨する

5テーマ・2.5巻の名著

今春から、県立長野図書館はじめ県下市町村図書館の全面的な協力の下で、精力的に書庫調査を実施し、それぞれの図書館からの推薦図書も含め100

点近い該当図書がピックアップされました。

そして、学識経験者、図書館長等で構成する刊行委員会を設置し、多くの提案、助言をいただく中で候補作品を検討し、「信州の名著復刊シリーズ」は練り上げられました。

このシリーズは、5つのテーマ25点と番外編から構成され、今年10月から4ヶ月毎に1期5点ずつを数年かけて発行していくという大型企画となっています。各期のテーマとタイトル等の概要は次のとおりです。

第1期～信州の伝説と子どもたち (5巻)

山の伝説 (青木純二 昭和5年)、信濃伝説集 (村澤武夫 昭和18年)、信濃の民話 (松谷みよ子他 昭和32年)、動物ども (椋鳩十 昭和18年)、信濃子供詩集 (信州作文の会 昭和30年)

第2期～信州の先人に学ぶ (5巻)

佐久間象山逸話集 (大平喜間多 昭和8年)、赤松小三郎先生 (柴崎新一 昭和14年)、松尾多勢子 (市村威人 昭和5年)、保科五無齋 (井出孫六 昭和63年)、日本アルプス登山と探検 (ウェストン 昭和8年)

第3期～女性が歩んだひとすじの道 (5巻)

第4期～文学に描かれた「青春」(5巻)
第5期～信州に生きる (5巻)

編集の特色

選択された本の多くは戦前に出版されたもので、旧漢字や旧かなづかいで読みにくいものが多く、これらの名著を今の読者から遠ざけていました。

本シリーズでは、これらを常用漢字、現代かなづかいに改訂するとともに、大活字を採用したため大変読みやすくなっています。また、判型や装丁を一新し全2.5巻を叢書スタイルに統一しました。

読書文化の向上

「信州の名著復刊シリーズ」は出版事業であるとともに、長野県の大きな読書運動でもあります。

まず、学校の先生方や図書館職員がこれらの本を読み、地域を知り愛着を

もつことが重要だと思います。そして、学校の先生が、親が、団塊の世代が率先垂範して、読書の楽しさを子どもや若者に伝えていくことが必要です。少年から青年になる過程で、寝食を忘れて読書に没頭する体験を是非してほしいと思います。

図書館が推薦し、識者の目を通して的確にセレクトされた

1冊1冊を書店、図書館、学校において丁寧に紹介し、一人でも多くの読者に語りかけていく。その過程の中でこそ読書文化の復興、地域文化の振興が図られるものと確信します。「信州の名著復刊シリーズ」を通じて長野県の読書文化を向上させたいと願っています。

(みやした あきひこ／長野県図書館協会 常務理事・事務局長)



新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『酒とつまみ 第11号 一酌〜気持ちいい〜!』 ●酒とつまみ編集部

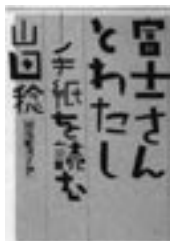


仮にこの雑誌の本質は何であろうなどと真面目に考えたでしょう。こういう時はこの雑誌の恒例のコーナー〈酔客万来〉で、編集人たちがゲストに投げかける質問を見てみるとよいだろう。「初めてお酒を飲んだのはいつですか?」「これまでで一番飲んだのはいつの時ですか?」「飲みすぎて一番ひどかったっていう酒は?」…要するに飲むことしか考えていない(笑)。因みに今号の

ゲストは作家の安部譲二さんである。次に読者の投稿からなる〈酒飲み川柳〉を見てみよう。「ポケットの小銭集めて もう一杯」「夢の中 飲んでる酒は 大吟醸」…やっぱり飲むことしか考えていない(笑)。今号も絶好調である。

◆400円・A5判・80頁・大竹編集企画事務所・東京・2008/9刊・ISBN978-4-903143-12-5

『富士さんとわたし 一紙を読む』 ●山田稔著



手元に残る富士正晴からの手紙169通。それと対をなす自分自身の出した手紙を読み返したい、と始まる本書。1954年4月、23歳の青年山田稔が富士宅を訪れた出会い、その礼状から山田による手紙は194通。1987年2月までの約33年間にわたる往復書簡と、付随して克明に思い出される情景。同人雑誌「VIKING」、「日本小説を読む会」の活動を通じ分かち合われる時

間と理解。雑誌や新聞に掲載された互いの作品への率直な感想。共感。親しみ。励まし。酒席のお詫び。20歳近い歳の差も、互いへの尊敬の念を保ちつつ「ノンジャンル」とした独特の関係を育む。平野甲賀氏の装幀が味わいを深くする。

◆3675円・A5判・527頁・編集工房ノア・大阪・2008/7刊・ISBN978-4-89271-168-8

『八ヶ岳』 ●信濃毎日新聞社編集局編



八ヶ岳の山域を広範囲に取材し、大型の写真多数を加えて編集した迫力のある山岳レポート。内容はこの山塊の成り立ちから、美しい姿を見せる個性ある山々の紹介、四季を通じての自然現象の変化や山と登山者との関わりなどが最新の綿密な現地取材で報告されている。そのなかには登山者や地元の人々、山小屋の人たちの声なども随所に引用されており、一層新鮮で興味を引く。八ヶ岳

は交通の便もよく比較的开发も進んでいることから、そこに集う人々の山や自然に対する接し方、その楽しみ方など現代の新しい潮流を本書はよく伝えている。たしかに山でのレジャーに変化が見られる。それらはまた未来への発展の予告でもあろうか。

◆2415円・2570×2100・203頁・信濃毎日新聞社・長野・2008/6刊・ISBN978-4-7840-7077-0

『近代日本の分岐点 一日露戦争から満州事変前夜まで』 ●深津真澄著



なぜ、日本は無謀な戦争に突入してしまったのか、多くの国民は「満蒙は日本の生命線」という軍部や新聞の空虚な掛け声を疑おうとしなかったのか。その謎を解く鍵は、日露戦争以後、軍国主義が始まる満州事変までの25年間にあるとの問題意識から、この時代の国策に関わった政治家小村寿太郎、加藤高明、原敬、田中義一と、ジャーナリスト石橋湛山をキーマンと位置づけ、その動

きを追うことで問題を掘り下げる。特に、小村の満州権益にかける異常なまでの執念や、第一次世界大戦参戦を主導した加藤の対極にあって、大日本主義を明確に否定し、平和経済外交への転換を求めた石橋への思いを強く描いている。

◆2730円・A5判・238頁・ロゴス・東京・2008/6刊・ISBN978-4-904350-06-5

『店長、出番です! 一ワタナベ店長の事件簿』 ●渡邊小百合著



白木屋や魚民などの直営店1500店舗を抱える飲食店経営企業モンテローザ。入社一年足らずで白木屋の女性店長に昇格した著者だが、父の経営する会社が倒産し、それまでの生活が一変、どん底から無我夢中で働いたという背景があった。しかし、結果的に新人教育研修のエキスパートという才能を開花させたことになった。本書は、現在は(株)EQソリューション代表取締役として活躍

する著者の今までの経験を綴ったもの。まさに事件の連続でありながらも、さまざまな人との出会いに教えられ、支えられてトラブルを解決してきた著者の手腕は見事である。仕事や人間関係で悩む人々に「元気の秘訣」が大いに役立つ。EQ簡易診断つき。

◆1575円・四六判・191頁・書肆侃侃房・福岡・2008/8刊・ISBN978-4-902108-82-8

売行良好書

期間：2008年8月16日～9月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房 (2)『あっちゃん あがつく』1890円・リーブル (3)『幕末の外交官 森山栄之助』1890円・弦書房 (4)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (5)『機能不全家族』1600円・アートヴィレッジ (6)『みんな、同じ屋根の下』1890円・行路社 (7)『鉄腕稲尾の遺言』1680円・弦書房 (8)『医者、用水路を拓く』1890円・石風社 (9)『中国低層訪談録』4830円・中国書店 (10)『どんぐりの図鑑 フィールド版』1050円・トンボ出版 (11)『驚きの手話「ハ」「ボ」翻訳』2625円・星湖舎 (12)『林達夫・回想のイタリア旅行』1890円・イタリア書房 (13)『地域に図書館がありますか?』1260円・石風社



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1)『東京かわら版 9月号』420円・東京かわら版 (2)『酒とつまみ 11号』400円・酒とつまみ社 (3)『アーイモダンの夢』2520円・弦書房 (4)『幕末の外交官 森山栄之助』1890円・弦書房 (5)『鉄腕稲尾の遺言』1680円・弦書房 (6)『モツ煮狂い 第2集』504円・平成烏有堂 (7)『歩いて知る浅井氏の興亡』1890円・サンライズ出版 (8)『信長の城下町』3150円・高志書院 (9)『唐沢俊一文筆業 サバイバル塾 Vol. 1・2 合本号』1050円・出版評論社 (10)『日本酒ことば入門』1785円・無明舎出版

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『日々 13』735円・アトリエ・ヴィ (2)『酒とつまみ 第11号』400円・大竹編集企画事務所 (3)『東京かわら版 No. 416』420円・東京かわら版 (4)『e 自然体数の底1000000桁表』285円・暗黒通信団 (5)『K-theory入門』315円・暗黒通信団 (6)『旅する長崎学10』600円・長崎文献社 (7)『あっちゃん あがつく』1890円・リーブル (8)『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』2100円・書籍情報社 (9)『ホメオパシー in Japan』1575円・ホメオパシー出版 (10)『サトルボディヒーリング』1890円・和尚エンタープライズジャパン

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★

▼三省堂名古屋高島屋店でフェア

昨年11月に書肆アクセスが閉店した後、三省堂書店神保町本店4Fの地方出版小出版コーナー開設にあたり、現場で中心になって尽力していただいたのが当時4Fリーダーだった海老原由貴枝さんでした。コーナー開設後は非常にきめ細やかなメンテナンスと補充、フェア企画などでコーナーの充実を力貸していただきました。そして、このコーナーを神保町において書肆アクセスに代わる地方出版物小出版物の展示販売の場として定着させていたのだと言つてよいと思います。その海老原さんが7月に名古屋高島屋店に副店長として赴任されました。そしてそこで9月中旬から1ヶ月間、地方出版社フェアを開催していただくこととなりました。これは神保町本店で9月上旬までやっていたフェアと連動した企画ということになると思います。お近くの方は是非足をお運びください。


▼雑誌情報

○熱心なファンをもつ『月刊DVD Express』(AVエクスプレス刊)ですが、9月上旬の10月号をもって休刊となりました。同社からは『季刊DVDレビュー』という雑誌も出ていますが、こちらは健在で9月下旬に94号が発行されます。○沖繩情報誌『うるま』(三浦クリエイティブ刊)はこれまで一部の直接取引書店にのみ卸していましたが、9月号より直接取引店以外の書店にも流通させることが可能となりました。

郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
 - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
 - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター
 FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

